

1. 略歴

- 1985年3月 東京大学文学部中国語中国文学専修課程卒業
- 1985年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程入学
- 1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程修了
- 1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程進学
- 1988年9月 中華人民共和国北京大学中国語言文学系留学（～1990年2月）
- 1990年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程退学
- 1990年4月 神奈川大学外国語学部専任講師
- 1993年4月 神奈川大学外国語学部助教授（～1995年3月）
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 1998年3月 文部省在外研究員に採用され、中国広州市中山大学に於いて研修（～1998年12月）
- 2013年1月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）
- 2017年4月 東京大学大学院人文社会系副研究科長（～2019年3月）
- 2019年4月 東京大学大学院人文社会系研究科長・文学部長（～2021年3月）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国語学、中国古文字学

b 研究課題

(1) 上古中国語の文法研究

構文と文法範疇の相関の変容の諸相、及びそれに関与する様々なファクターの解明を目指している。

(2) 戦国秦漢出土文字資料の研究

戦国秦漢時代の出土文字資料の解読の他、言語がどのように文字化されたかという視点に基づき、地域毎の用字法の相違、秦による文字統一の実態や文字政策に関する探究を行っている。

c 概要と自己評価

研究課題(1)に関しては、上古の中国人が認識した世界をどのように言語化したのか、コーパスと残された文献の背後にはどのような世界が広がっているのかという新たな問題意識から研究を進めている。研究課題(2)に関しては、統一前後の出土資料における漢字の使用実態の解明を進めているが、近年は秦系や楚系の文献に見られる他国の文字影響に着目し、一筋縄ではいかぬ文字の歴史の複雑性に焦点を当てている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、阿部公彦、沼野允義、納富信留、大西克也、安藤宏、『ことばの危機』、2020.6

(2) 論文

大西克也、「説“雨”和“雪”一氣象詞語在上古漢語中的語法表現」、『中国古典學』第一卷、50-70 頁、2020.5

大西克也、「上古漢語“有”字存在句及其時間性質」、『語苑探賾—慶祝唐作藩教授九秩華誕文集』、481-494 頁、2021.6

大西克也、「也説清華簡从“𠂔”之字」、『清華簡研究』第四輯、82-93 頁、2021.12

(3) 学会発表

国際、大西克也、「上古漢語“矣”非體標記説」、第十届國際古漢語語法研討会、北京語言大学（オンライン）、2021.3.27

国内、大西克也、「上古中国語のヴォイスをめぐる」、日本中国語学会第3回中国語学セミナー、オンライン、2021.9.11

国際、大西克也、「上古漢語「矣」的情態功能」、舊語新知：古代經典的語言新釋 學術工作坊、國立中山大學中國文學系（オンライン）、2021.10.30

(4) 啓蒙

大西克也、「漢字の誕生と変遷——甲骨から近年発見の中国先秦・漢代簡牘まで」、金文京編『東アジア文化講座第2巻 漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』、25-33 頁、2021.3

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、東方学会学術委員、中国出土資料学会理事、日本中国学会評議員